

農業の伸展と活性化を目指して

# 新市農業委員に17人が決定

本宮市農業委員会委員一般選挙は、6月17日（日）に告示され、午後5時に立候補の届け出が締め切られました。

その結果、第1・第2選挙区とも定数6人に対して6人ずつの立候補があり、選挙すべき定数を超えなかったため、選挙を行わないことになり、12人の無投票当選が決まりました。

6月25日（月）に市役所で当選証書付与式が行われ、新市の新しい農業委員が誕生しました。任期は、平成19年7月20日から平成22年7月19日までの3年間です。

また、このほか議会推薦と農業団体推薦委員5人も決定しました。7月23日（月）に初めての農業委員会が開かれ、会長に日向一雄さんが、会長職務代理者には川名実さんが互選されました。

## 議会・農業団体推薦委員も決まる

農業委員はこのほかに、議会から推薦された委員2人と、農業団体（みちのく安達農業協同組合と安達地方農業共済組合）から推薦された委員2人、また、大玉土地改良区から推薦された委員1人を含め、あわせて17人で構成されます。

## ●●● 当選された農業委員の皆さん ●●● (立候補届出順)

### 第一選挙区 (本宮地区)



伊藤 隆一さん (岩根字梅原) 国分 政利さん (荒井字堂川) 日向 一雄さん (高木字久保) 国分 敏英さん (本宮字関根) 遠藤 秀男さん (仁井田字五百川) 遠藤 政幸さん (青田字萱林)

### 第二選挙区 (白沢地区)



渡辺 清充さん (長屋字浦門) 渡辺 平二さん (白岩字松ヶ作) 渡辺 寿さん (稲沢字下後山) 川名 実さん (糠沢字堀ノ内) 三瓶 一郎さん (松沢字平郎内) 平 勝治さん (和田字下白旗)

### 【議会推薦委員】



遠藤 義一さん (青田字寄松)

### 【みちのく安達 農業協同組合推薦委員】



国分 関夫さん (糠沢字小田部)

### 【安達地方農業共済 組合推薦委員】



宍戸 一郎さん (岩根字水池尻)

### 【大玉土地改良区推薦委員】



伊藤 松男さん (本宮字平井)

# 日米大学野球選手権大会出場 根本朋久選手 (本宮市和田出身・白沢中卒) 左肩の痛みを乗り越え 「完全復活」 夢のマウンド(舞台)で力投



根本 朋久 選手

日本とアメリカを代表する大学野球の精鋭たちが集う、「第36回日米大学野球選手権大会」は、7月4日から8日までアメリカのノースカロライナ州で開催されました。この大会に本宮市和田出身で、現在、横浜商科大学4年の根本朋久選手(和田字西明内)が選ばれ、8日の最終戦第5戦に投手で出場しました。今回の根本投手の活躍をたえ、これからの飛躍を願って、大会結果とともに皆さんにお伝えします。

### 最終戦を力投

日本が3勝1敗で敵地アメリカ開催での初優勝を決めた翌日の最終戦。根本投手は、先発投手として初登板し、2回と3分の1を力投した。

1回の先頭打者を見逃し三振に仕留め、好調な滑り出し。1、2回とも四球は出すが後続を断ち、得点は許さなかった。しかし、3回一死から外角高めの直球を豪快に左越え本塁打された。

だが、2回3分の1を投げた時点でこの1点のみで、最終戦初登板の意地を見せた。このあと、後続の投手がくずれ、惜しくも勝利は逃したものの、アメリカの大舞台で活躍を果たした。

### 努力が実り「完全復活」

この大会が始まる10日ほど前の6月24日。実家の根本久一郎さんのお宅は二重の喜びに包まれた。

この日は、二女美穂さんの結婚式。祝いの席に一本の電話が鳴った。「代表選手に内定した」との息子の言葉に、胸をなで下ろす父久一郎さんと母星子さん。招待客からは大きな祝福を受けた。翌日には22人の代表選手が



父親の思いを語る久一郎さん

発表され、投手陣8人の一人として背番号16番を獲得した。根本投手は左投げ。1歳半のときに右鎖骨を骨折して以来、左利きになった。中学生まではフリーストだった。最初の転機は、帝京安積高の藤田進監督との出会いだ。久一郎さんは語る。監督に手首の強さをかわれ同校に入学。「手首が強いから投手に転向しろ」と勧められた。本人の素質を見出し出してくれました。と当時を振り返る。その後、横浜商科大への進学を勧められた。二度目の転機は、大学2年生の秋。「やめようか」とま

で思い悩んでいた左肩の痛み。この痛みがちな左肩を思い切って手術した。投げ込みができない分、徹底的に走って下半身を強化した結果、課題だった制球が良くなった。「どうだ続けるか」と言う久一郎さんの問いに、「自信がついた。完全復活を目指す」と力強い答えが返ってきた。翌年夏には、グローブを新調し「完全復活」と縫い込んだ。秋には「打たれる気がしなくなった」という。その左腕から繰り出される球種は、直球、スライダー、カットボール、カーブ、チェンジアップなど多彩。中でもカットボールには絶対の自信を持ち、右打者の内をえぐる直球は抜群の伸びを見せる。今年春のオープン戦と神奈川大学野球連盟春季リーグでは、三振の山を築き「ハマのドクターK」と称されるまでに急成長し、一躍ファン、スカウトの注目の的になった。「やるんだっつたら、とことんやってみる」息子に送った言葉。夢を追い続けるには、やりたいことをやらせたいという父の思い。そして、「将来は自分で道を切り開いてほしい。今後は本人の努力だ」と語る久一郎さん。その言葉に根本投手の今後の活躍を祈り、心からエールを送ります。

最終戦に先発し力投する根本投手 (写真提供: 共同通信社)